様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １７ 日現在

機関番号：１３５０１
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ１７６３４

研究課題名（和文）過疎地域に暮らす社会的に孤立した高齢者への看護職による見守り支援モデルの構築

研究課題名（英文）Development of a model to support socially isolated elderly people living in depopulated areas by nursing professionals to watch over them

研究代表者
神崎　由紀（Kanzaki, Yuki）

山梨大学・大学院総合研究部・教授

研究者番号：８０３８１７１３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、高齢化が進む過疎地域に暮らす社会的に孤立した高齢者の孤立の状態について明らかにし、高齢者を支援する看護職が、それぞれの地域性の中でどのように支援しているかを明らかにすること、また、社会的に孤立した高齢者が住み慣れた地域での暮らしの継続を支援するモデルを構築することを目的とした。
地域包括支援センターの看護職への面接調査から、看護師職は、高齢者本人や家族の健康状態や家族の関係性、体調や生活を保つ力をアセスメントしていた。把握する高齢者の状態は、住居内の雑然さや他者との関係性、目立たないように暮らす傾向や他の地域から移り住んでいる状況を把握していることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では、社会的に孤立している高齢者を支援する看護職が把握する、高齢者の孤立の状態（生活の状況や行動の傾向）を明らかにした。また、高齢者への支援の必要性を看護職が判断する視点も明らかにした。研究対象者は、過疎化や高齢化が進む地域を担当する看護職が複数含まれている。こ本研究の成果は、過疎地域に限らず、また、支援する看護職の経験に限らず、地域で孤立する高齢者の支援の必要性について、支援者が判断する指標として、また、不必要なケアを避けることに貢献すると考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the state of isolation of socially isolated elderly people living in depopulated areas with an aging population and to develop a model of support for nursing professyonals.
Interviews were conducted with nursing professionals at a community support center. The nursing professionals assessed the health status of the elderly themselves and their families, family relationships, and their physical condition and ability to maintain their lives.
It was clear that the conditions of the elderly assessed included clutter in the residence, relationships with others, the tendency to live inconspicuously, and the circumstances under which they moved from other areas.

研究分野：地域看護学

キーワード：社会的孤立　高齢者　過疎地域

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

高齢者の社会的孤立は、生きがいの喪失や詐欺被害、犯罪や孤立しなど社会的課題に発展する可能性が指摘されており[1)]、その要因は、社会的・環境的要因と高齢者個人の身体的・精神的要因に大別される。孤立を防ぐことは、高齢者の地域生活を支援する上で重要な課題のひとつであり、わが国の社会的孤立に関する研究は年々増加している。社会的孤立の概念は、多くの研究でイギリスの社会学者ピーター・タウンゼントの定義[2)]に準拠し、ある一定の地域集団から他者との接触頻度の少ない者を孤立の状態だと判断して研究の対象としている。

近年、高齢者の居場所づくりや住民同士の見守りネットワークの体制整備、ソーシャル・キャピタルの醸成など、社会的孤立を防ぐ取り組みが行われている。しかし、これらの対策は孤立のリスクが高い高齢者を孤立させないための取り組みである。すでに孤立している高齢者は、他者との接触を避ける傾向にあるため、実態を把握することは非常に難しい。さらに、社会的孤立の特徴として、都市部で生活するひとり暮らしの男性高齢者が示されている[3)]。

一方、高齢化率 40%～50%と高齢化が進む過疎地域では、認知機能や生活機能が低下し、孤立する高齢者を住民同士で支え合うには限界があるといえる。社会的に孤立した高齢者は、積極的な支援を求めない傾向から、見守りという支援方法が重要であると考える。地域包括ケアシステムでは、専門職と非専門職が協働していくことが重要であるが、地理的環境や社会資源の種類、人口など都市部に比べ制約がある地域で他職種や住民との協働を考えていくために、まずは、専門職が社会的に孤立した高齢者への支援に関する知見を明らかにする必要があると考えた。

つまり、社会的孤立の研究の多くは都市部を中心に行われてきたが、高齢化の進む過疎地域にも社会的に孤立している高齢者の存在があり、地域特性に合わせた支援が必要ではないかと考えた。また、高齢者を看護職が見守り支援しているが、それらの支援について学術的な知見は十分でなく、学術的知見を蓄積する必要性があると考えた。

２．研究の目的

本研究は、高齢化が進む過疎地域で社会的に孤立した高齢者へ効果的な支援を検討するために、過疎地域に暮らす社会的に孤立した高齢者の孤立の状態について明らかにすること、過疎地域で高齢者を支援する看護職が、それぞれの地域性の中でどのように見守り支援しているかを明らかにすること、社会的に孤立した高齢者が住み慣れた地域での暮らしの継続を見守り支援するモデルを構築することを目的とした。

３．研究の方法

１）研究方法

(1)社会的に孤立した高齢者の状態と看護職のアセスメントの視点の明確化

過疎地域での特徴を把握するための調査項目を検討するために、これまでに実施した、関東甲信越地域の地域包括支援センターに３年以上勤務する看護職への面接調査の結果について再確認し、看護職が見守り支援する社会的に孤立した高齢者の状態と看護職のアセスメントの視点に分けて内容を精錬した。

２）調査内容

(1) 研究対象者：看護職としての経験年数、地域包括支援センターでの経験年数、取得資格、看護職としての経験、担当地域の高齢化率、勤務する地域包括支援センターの設置形態。

(2) 社会的に孤立した高齢者への支援：社会的に孤立した高齢者へのアウトリーチ活動による支援の必要性を判断する際、特に着目している点、また、観察で得られた情報から、高齢者の状態や支援の必要性について、何に着目しているのか。

３）データ収集方法

インタビューガイドに基づいた半構造化面接を実施し、その内容は許可を得て IC レコーダーに録音した。面接調査は、山梨大学医学部倫理委員会（受付番号 2001）の承認を得て実施したものである。

４）分析方法

作成された逐語録の内容について精読した。看護職の語りから、看護職が支援する社会的に孤立した高齢者の状態と看護職のアセスメントの視点に着目して文脈を抽出し、その意味内容を表す言葉でコード化した。各コード間の類似点と相違点を考慮しながら、サブカテゴリ化、カテゴリ化した。

４．研究成果

１）社会的に孤立した高齢者の状態と看護職のアセスメントの視点の明確化

(1) 研究対象者の概要：関東甲信越地域の地域包括支援センターに勤務する看護職 5 名。地域包括支援センターでの経験年数は、4～13 年であった。地域包括支援センター以外の看護職の経験は、行政保健師、病院看護師、通所介護看護師、訪問看護師であった。地域包括支援センターの設置形態は、直営型１名、委託型１名であった。管轄地区ごとの高齢化率は、24.0%～

74.4%であった。

(2) 社会的に孤立した高齢者への支援

① 看護職が支援する社会的に孤立した高齢者の状態

看護職が支援する社会的に孤立した高齢者の状態については、行動傾向として整理した。7 つのカテゴリと 23 つのサブカテゴリが生成された(図)。以下、カテゴリを≪　≫で示す。

表１．社会的に孤立した高齢者の行動傾向

カテゴリ	サブカテゴリ
不衛生な家に住む	家の中が片づけられていない
	たくさんのネズミが走り回る
	家の中から尿臭がする
	時計が止まっている
	庭に草木が生い茂る
家族との疎遠な関係	連絡できる家族がいない
	家族と疎遠な関係
	連絡できる親族がいない
近隣との関係を避ける	他者の接触を拒む
	近隣住民との交流を避ける
	地域行事への参加はしない
自分なりに健康を管理する	自己判断で薬を飲む
	健康管理は自分で行う
	自分の生活スタイルを守る
	自由に生きる
他の地域から移動してくる	他の地域から転入してきた
	転居を繰り返して現在の家に暮らす
	人との交流を避けて住所を移動してきた
ソーシャルサービスを拒む	ソーシャルサービスや支援を拒む
	行政サービスを拒む
目立たないように暮らす	日中の外出を避ける
	ろうそくの灯りで過ごす
	ひっそり暮らす

生成されたカテゴリから、看護職が支援している高齢者には、≪不衛生な家に住む≫≪家族との疎遠な関係≫≪近隣との関係を避ける≫≪自分なりに健康を管理する≫≪他の地域から移動してくる≫≪ソーシャルサービスを拒む≫≪目立たないように暮らす≫という行動の特徴があることが明らかとなった。≪ソーシャルサービスを拒む≫≪目立たないように暮らす≫≪近隣との関係を避ける≫≪他の地域から移動してくる≫など、地域で孤立する要因をもつ一方で、生活や健康管理は自分なりのスタイルで行っており、孤立しがちな高齢者のその人なりの生活を守りながら、予防的な健康維持のために必要な支援は何かを検討する必要があると考える。

② 社会的に孤立した高齢者を支援する看護職のアセスメントの視点

社会的に孤立した高齢者を支援する看護職のアセスメントの視点については、74 のコード、28 のサブカテゴリから、7 つのカテゴリが生成された。以下、カテゴリを≪　≫、サブカテゴリを< >で示す。

生成された 7 つのカテゴリは、≪他者とのつながり≫≪コミュニケーションのとり方≫≪健康状態≫≪健康を自己管理する力≫≪これまでの生活とその変化≫≪その人なりに生活を保つ力≫≪家族が互助する力≫であった。≪他者とのつながり≫では＜郵便物がどこからきていそうか＞や＜その人なりのコミュニティがありそうか＞＜誰かとつながっているか＞、≪これまでの生活とその変化≫では、＜どんな生活をしてきた人か＞＜本人の大切にしていること＞など、居住する地域や現時点に限らず、支援する高齢者の他者とのつながりについてアセスメントしていた。

社会的に孤立する高齢者に関わる看護職は、高齢者を見守り支援していくか判断するために、高齢者の健康状態やコミュニケーションの特徴、他者との関係のとり方等を観察しながら、高齢者のもつ健康や生活を保つ力、状況の変化をアセスメントしていた。また、これらの高齢者への支援は、看護職が単独で行うのではなく、他の職種や地域住民と協力して行っているものであり、時間をかけて支援をしている状況にある。そのため、これらのアセスメントの視点と合わせて、支援の必要性やそのタイミング、支援方法を考えいく必要があると考える。

２）見守り支援モデルの構築について

本研究は、社会的に孤立した高齢者への見守り支援モデルを構築することを最終的な目的としていた。であった。しかしながら、研究期間に CONID-19 感染症の感染流行により研究協力を依頼することが困難な状況にあったこと、同時に業務が多忙になったこと等により過疎地域における支援モデルの構築には至らなかった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 Yuki Kanzaki
２．発表標題 Behavioral trends of socially isolated elderly people in rural areas of Japan
３．学会等名 International Congress of Behavioral Medicine（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 神崎　由紀
２．発表標題 社会的に孤立した高齢者へのアウトリーチ活動での看護職のアウトリーチの視点
３．学会等名 第８回日本公衆衛生看護学会学術集会
４．発表年 2020年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関